

はじめに

今日の急速な情報化や技術革新は、私たちの生活を質的にも変化させつつあります。このような中、教育も新たな課題に直面しています。未来を創るこどもを育むために、教師自らが問いを立て、実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びを行うなど、研修実施者及び教師自らがデザインしていくことが求められています。

このことを踏まえ、当センターにおいても、実践的指導力の向上を目指す研修を一体的、系統的に実施するとともに、「授業観」「学習観」そして「研修観」の転換を目指し、市町村教育委員会や学校等と連携した研究を進めていきたいと考えています。

本誌は、当センターが実施する各事業がより充実し、学校現場に寄与できるものとなるよう、これまでに取り組んだ3つの研究等を掲載しています。

「自立した学習者を育成する教育方法についての一考察－『学び合い』の授業から考える『個別最適な学び』と『協働的な学び』－」では、急激に変化するこれからの社会で生きていくために必要な力を育むため、教師が整えた学習環境の中で、こどもが自らの学習を調整し、また他者と協働して学ぶ、自立した学習者を育成する教育方法について考察しています。

「初任者の育成に焦点を当てた研修の在り方に関する研究－校外研修及び校内研修の考察を通して－」では、技術の進歩や新たなニーズにより変化する学校教育環境の中で、「新たな教師の学びの姿」を実現する必要性を論じ、当センターが行う初任者研修の校外研修と指導教員による校内研修における初任者の学びを成果物や感想を用いて分析するとともに、その結果を基に、今後の初任者研修及び指導教員に対する協議会の内容と方法について考察しています。

「学びサイエンス事業（理科の出前授業）におけるコンテンツの改良と開発－特別支援学校の理科教育の更なる充実に向けて－」では、特別支援学校における教科教育の充実が求められている状況を踏まえ、当センターが実施する学びサイエンス事業（理科の出前授業）を通じて特別支援学校と連携し、既存のコンテンツを改良・開発しました。これにより高まった児童生徒の理科への興味・関心と、今後の展望について述べています。

以上、本誌の内容が学校教育活動の活性化の一助となり、本県教育の更なる充実につながることを願うとともに、御高覧の上、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

令和7年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所長 福田 孝